上之坊だより

平成30年6月29日
第80号
福山市大門町大門325
電話（084）941－1031
fax（084）941－1168

弘法大師聖語抄（こうぼうだいしせいごしょう）

五大（ごだい）に皆（みな）　響（ひびき）き有（あ）り
六塵（ろくじん）　悉（ことごと）く　文字（もんじ）なり

「自然からの音はみな宇宙の活動の現れであり、私たちが受け取るすべての感覚は仏様からのメッセージである」とお大師さまは言われています。

五大とは、地・水・火・風・空の五つの自然界を作っている要素の事で、六塵は色・声・香・味・触・法の感覚を表し、お経の中にも「眼耳鼻舌身意（げんにーびーぜっしんに）」と出てきます。

仏様の教えは経典の中にだけあるのではなく、自然界のすべての動きが仏様そのものである。と、説かれて、これを知れば、花の色や香りの中に、あるいは冷たい水の清らかな感触に、また新鮮な食べ物の味など、普段の生活のどこにでも仏様の慈悲と自然の恵みが満ちていることが理解でき、意識することなく、感謝と崇敬の気持ちが次第に深まると思います。

お盆・お彼岸のお参り

お盆は八月一日から八月十六日までの十六日間にお参りをいたします。ほぼすべてのご自宅にお伺いをする予定ですが、ご都合が悪い場合はご連絡をお願いします。

秋のお彼岸にもお参りが出来ます。

星祭で羽合温泉旅行の当選者の方へ

すでに三十年以上行事として定着している星祭ですが、毎年の福引の羽合温泉当選者の方で、旅行に行かれていない方が三組いらっしゃいます。

大変恐縮ですが、今後二年のうちに旅行または代案でご利用をしていただければと存じます。詳しくはお寺にご相談をお願いします。

真言宗の基礎知識（その三十五）（弘法大師）

題の基礎知識とはすこし離れますが、最近読んだ六庫本で島田裕巳著『空海と最澄はどっちが偉いのか』（光文社）をご紹介いたします。

弘法大師（お大師様）は中国で最先端の密教に出会われ、予定された二十年の留学期間を二年に縮めて帰国をされました。そして帰国の後、都に帰れず九州で蟄居された時期も長くありました。しかし、お大師様が留学期間をそのままにしていたら、次の船が迎えに来たのは四十年以上後のことでしたので、日本に帰ることは決してなかったはずです。「空海は実に的確な判断を下して、早期に帰国した事になります。」

一方、伝教大師の名をいただく最澄さまは朝廷の命を受けて、当初の予定どおり中国で天台の教えを研究され、日本に持ち帰り、日本の仏教の基礎を確立されました。この本では「比叡山と高野山を比べれば、日本の仏教史において比叡山のほうが重要かもしれません・・・」と書かれています。

しかし、お大師さまはその後も御自分の考えで御自身の道を貫かれました。伝説が生まれ、幅広く信仰をされるようになります。島田氏は書かれています。「・・・が、宗教家としては空海が最澄を圧倒しているのではないでしょうか。」

同じ時代、同じ志を持ち続けたお二人は、その後の日本人の精神に大きな影響を及ぼす事になるのです。

四国八十八ヶ所ご案内

今年四月に催行をした四国八十八ヶ所のお遍路ですが、次は十一月十四日（水）から十六日（金）に土佐の国を廻ります。

詳しいご案内は十月の上之坊だよりにての予定ですが、宿坊一泊と旅館一泊の三日間を予定しております。

お遍路巡拝はどこから始めてもどこで終っても構いませんので今回からの参加が可能です。ご参加をご検討ください。

中国映画「空海」

前回ご紹介をした「空海」ですが、評価が大きく分かれました。スケールの大きなファンタジーとミステリーの映画としての評判はありましたが、内容が分からないとの辛い評価も多くありました。

日本よりは中国でヒットした映画ですが、見た人によって随分開きがある映画のようです。

お盆棚行のご案内

八月
一日　東谷・早期希望
二日　中谷・駅前・西谷
三日　横道・吉浜・能島
四日　幕山・大谷
五日　石樋・古地
六日　大門一～四丁目
七日　大門町南部
　　曙・新涯・川口
八日　手城町方面
　　福山市東部
九日　引野町・蔵王方面
　　福山中心部・西部
十日　赤坂・尾道・三原
　　幕山台・大谷台
十一日　青葉台・伊勢ケ丘
　　福山市東部
十二日　笠岡・倉敷方面
十三日　新仏・福山市北部
十四日　新仏・その他
十五日　新仏・その他
十六日　新仏・その他
　　後期希望者

お施餓鬼供養のご案内　七月十四日（土）午後六時半～

おせがき（ロウソク）法要を七月十四日（土）夕方六時三十分より行います。

この法要は灯明・食物やお水をお供えして、多くの諸精霊の成仏を祈る法要で別名「施食会」とも言われています。

地獄や餓鬼道に墜ち、飢えや渇きの苦しみで成仏できない精霊に水や食物を供えて成仏できるように願い、また最近亡くなられて間もない仏様には一層の菩提の安らかなる事を祈る法要です。

お盆には各地でいろいろな供養の行事が催されますが、このおせがき法要がその一番最初の姿であり、亡くなった方への供養として、大変長い歴史を持つ由緒ある儀式であります。

今も多くのお寺で続けられているおせがき供養ですが、上之坊では亡くなられて三年くらいまでの仏様を中心に、有縁無縁（うえんむえん）の三界万霊への供養をいたします。

午後六時半に夕勤行を始めて夕暮れを待ち、ご詠歌や読経をし、経木塔婆（きょうぎとうば）に水をかけて回向をし、最後にロウソクに点灯をしてまいります。

新仏（しんぼとけ）様などで特別に成仏をお祈りいただく場合は、これに二尺半の施餓鬼塔婆をお墓にたてていただくようご用意いたします。できましたら前日までに電話などでお知らせください。

このときの志納金は五千円です。（記念品とお菓子付）

また一般参拝の方には経木塔婆とロウソクをお渡ししして供養をしていただきます。

一家族二千円をお願いいたします。（お菓子付）

この一般受付は当日十四日夕方六時十五分より開始いたします。

この法要終了後、今年のお盆勤めの日時のご希望を受けます。新仏様などお盆中にご希望の方はお残りください。

上之坊の本堂・横門の修復・改修工事について

去る六月十日、上之坊にて臨時の総代会が開かれ、主に今後の修繕計画について話し合われました。

毎年一月に総代会・世話方会が行われ星祭をはじめ諸行事などが審議されますが、この一月の会議では、寺の整備の中でユギ塔の工事と平行して、本堂西側の柱及び梁の修繕と横門の修繕または改修について検討されました。そして六月までに見積りを大森工務店に委託して作成し、横門については修繕にするか改修にするのかと、工事の時期を検討することが決められていました。

六月の会議には大森氏にも加わっていただき審議を行い、①横門は修繕ではなく新築とし、柱などで古いものが使えるかどうかについては解体後調査をする。②横門の形としては今までの形を踏襲するが高さを上げて横幅を狭くする。③本堂の柱・梁などの修復を優先する。以上三点を決定をいたしました。

時期は七月のお施餓鬼終了を待って本堂の工事に着手をし、十一月の土砂加持終了後に横門の工事を行うこととなりました。また、山門前の畑に少し土を搬入する話しも出ております。

ユギ塔工事について

ユギ塔工事は、現在はブロック積み上げが終わり、七月末の予定で芯柱と階段を作成しております。秋口からはご援助・お力添え頂ける方を募り、組み立てができるよう計画を進めております。

六月末現在、横門の再利用予定の瓦の取り外しが完了し、横門の解体工事が先行で始まりました。

石樋・幕山の総代交代

石樋の総代様が関戸康成氏から関戸博司氏に、幕山は枝広深根夫氏から枝広勇氏に交代されました。どうぞよろしくお願いします。

納骨堂等の造営について

近年お墓を取り巻く環境がずいぶん変化をしてきました。樹木葬など数年前まで想像できなかったような納骨形態が少しずつ始まっています。

家族形態が多様化し、家によっては将来無縁墓を残さない工夫が必要な場合も多くあります。

このような状況下でお寺として何かの行動が必要なのでしょうか。お墓が少ないお寺として納骨堂や樹木葬についても検討を始める時期がやって来たのかもしれません。

檀家の皆様のご意見を広くお伺いしたいと思います。